

提 案 ④ 行政と市民が役割分担をしながら運営しよう！

◆調査結果◆

行政アンケートから、ほとんどの審議会・委員会が行政の発意や条例等により会を設置していました。また、約9割の審議会・委員会は行政が事務局を担っていました。開催案内などの事務の他、資料作成や素案づくりを行っていることが分かりました。

市民アンケートには、「行政のペースで進めすぎだと思った」、「シナリオ通り進んだ感じでおもしろくなかった」との行政への問題提起の意見が寄せられました。一方、「委員の個人的な発言により問題点が見えなくなることがあった」、「一言も発言しない人がいた」、「市外の学識経験者の委員が、他人事のように話していて疑問を感じた」との市民委員への問題提起の意見が寄せられました。



行政と市民双方が、課題と目的を理解し、自主性・主体性のもとに役割と責任を自覚し合うことが大切です。それが公共領域を担う対等なパートナーとして活躍するための基本です。

◆◇◆行政に求められること◆◇◆

会の目的、市民参加の必要性、結果がどう反映されるか、そのために必要な会の回数など、全体の進め方を、初回の集まりで共有することが信頼関係構築につながります。また、限られた時間の中で成果を生み出すために、大きなテーマよりも個別具体的な課題に絞って会を設置することが得策です。市民が自分達に求められる役割を認識する上でも大いに役立ちます。

審議会・委員会に参加経験のある市民にヒアリングしたところ、委員長・会長の責任の重要性を指摘する声が聞かれました。委員長・会長と行政事務局との事前協議や役割分担の公正性が求められます。見知らぬ人が集まる会合で、自らの意見を述べたり、反対意見を持つ人と冷静に話したりすることが難しい状況が想定されます。また、集まった市民の情報レベルは異なっており、議論がスムーズに進まないことも想定されます。委員長・会長には、委員みんなが平等に意見を言え、合意形成をはかることができるよう、専門的にコーディネートする力が必要です。最近では別にファシリテーター（進行役）を置くこともあるようです。招聘した学識経験者・専門家が進行に長けている人なら、ファシリテーター（進行役）を担ってもらえることもできると考えます。

◆◇◆市民に求められること◆◇◆

委員会・審議会で発言するときは、意見交換と協議により、合意形成を目指しましょう。その会の目的に関心を寄せ、自主的・主体的に参加することが大前提です。団体の役員という肩書きで参加する場合も、市民代表、地域代表という自覚と責任を持つことが求められます。単なる市民の要望ではなく、政策の担い手としての自らの取り組みを含めた提案をしていきましょう。

まちには解決しなければならない多様な課題が複雑に絡み合って存在しています。行政は、緊急性や重要性を勘案して、限られた予算を配分しています。それを理解し、自己主張だけに終わらず、意見交換と協議により、みんなが納得する提案に向けて尽力しましょう。